

大宮 悟志 (2014年卒)

留学施設 Radiation Oncology Branch/Molecular Imaging Branch, National Cancer Institute, National Institutes of Health

留学期間 2024年～2025年

大学院卒業後、私はアメリカ・メリーランド州ベセスダにある NIH (National Institutes of Health) へ約2年間留学しました。「留学にはハプニングが付きもの」とは聞いていましたが、まさか渡米後わずか3ヶ月でボス (Dr. Coleman) が他界され、さらに移籍先のボス (Dr. Freddy) の転職によって、計2回も研究室が閉鎖されるとは夢にも思いませんでした。そんなイレギュラー続きの留學生活でしたが、周囲の素晴らしいスタッフや仲間にも恵まれ、研究を止めることなく前へ進めることができました。1つ目の研究室では「放射線障害に対する肝臓の反応に影響を与えるタンパク質の発現や活性化」について、そして2つ目の研究室では「様々な肝臓マウスモデルとその応用」について、深く研究に没頭することができました。たびたび様々な要因で研究がストップしてしまう瞬間もありましたが、私はそれをあえて「チャンス」と捉えました。リフレッシュを兼ねてアメリカ国内外を旅したことは、今でも忘れられない素晴らしい思い出です。この2年間を通じて、研究面では国際的な視点や柔軟な思考力が養われ、生活面では異文化の中でタフに生き抜く自立心と適応力が身につきました。これから留学を考えている先生、あるいは少しでも海外に興味がある先生へ。ぜひ、恐れずに一步を踏み出してみてください。日本での生活では考えられないような不便さや壁にぶつかることもありますが、それらすべてが、振り返ったときには必ず「行ってよかった」と思える最高の経験に変わるはずですよ。



NIHの研究棟



NIHの春の様子



スイスでのパラグライダー



Coleman ラボのメンバー



Freddy ラボのメンバー



カンクン